

富士も秋冷の候、山頂には二度目の冠雪もあり、ススキの穂並みも白き波の如くに寄せては返す昨今である。先日小山町協力会との行事があって参加した。その際、小山町と金太郎伝説の話になり、色々なお話を伺った。云うまでもなく、金太郎は、源頼光の四天王の一人として酒呑童子等の退治に活躍した後の坂田金時（公時）の幼名である。

小山町は金太郎の町を標榜し、金太郎は町のシンボルでもある。町内至る所に金太郎に因む伝承が残されている。その数は、小山町史に記載されているものだけでも、優に40に近い。それらは、町域の東部、足柄山よりの地に多い。隣町の南足柄市も金太郎をメインにした町作りを行っており、嘗ては小山町とライバル関係にあったようだが、現在では共存の方向に向かっているようだ。大同団結しての広域の共栄が望まれる。

金太郎終焉の地と言われるのが、岡山県勝田郡勝央町であり、同町とは姉妹町である。

「今昔物語集」や「古今著聞集」に源頼光の郎党として「公時」という人物が登場し、彼の故郷が足柄山周辺であったこと、幼名を金太郎と称していた（町史民族編 959p）ことを背景とし、昭和7年の金時踊りのレコード化、昭和9年に中島の坂田屋敷を含む一帯に金時公園が設置され、同年の尋常科の教科書の指導書に「金太郎の出生地は静岡県的小山町」と注記された（同書 965p）ことが金太郎即ち小山町となった直接的な要因であろう。金太郎は小山町にとって不可欠の存在である。

町内に残されている主要な伝承を紹介しよう。

① 金太郎の誕生と子供時代

町内中島地区には、昭和9年開設の金時公園があり、公園内には金時神社、神社拝殿あたりが金時の生家という坂田屋敷、産湯を汲んだ産湯の七滝、金太郎が遊んだと言われる金時杉（明治一〇年頃伐採）、金時杉で作られた橋と言われる金時橋、信仰の対象であった不動尊像（既に消失）や第六天社があり、まさかりや遊具も伝えられていたという。

金太郎が戯れた「金時桜」、金時山に登る途中猿が待っていたという「猿待合」と言う地名も存在する。

金時公園



左に見えるのが金時神社



金太郎の手つき石

② 姥（母親）に纏わる伝説関連

生土地区には、金太郎の帰りを待ったと言われる「子迎（え）」と言う地名、腰掛けたと言われる「姥の腰掛け石」、小山地区には姥が水垢離して生まれる金太郎の健康を祈願した「遊女の滝」、湯船地区には、安産と子の健康を祈った「子産（み）神社」、産んだ場所の「子産（み）田」、母が懐妊の身を養うために通ったという「あさかえ湯」がある。金時山周辺には、京に旅立つ金時を見送った「子送坂」、遊びに行っ行って行方不明になった金太郎を見つけたという「姥見」もある。金時山仙石原側山麓にある畳八畳敷きぐらいの岩窟は「宿り石」と言われ、金時が生まれた場所であるとも言われる。

参考までに、「金時娘」を紹介しよう。

金時娘と呼ばれるのは、金時山頂の茶店の3代目の小宮山妙子さんである。昭和25年の皇太子（今上天皇）が登頂されたときにお世話をして以来、新聞などで採り上げられ、金時娘として人口に膾炙されるようになった。（町編纂「足柄山の金太郎」49～50p 要約）

③ 鯉のぼり由来伝承の池

町内柳島には金太郎が泳いだという「沼子池」がある。金太郎はこの池で大きな鯉に抱きついたと言われ、これが、五月の端午の節句に鯉のぼりをあげる由来だとの説がある。金太郎にあやかって、腕白でも良い逞しく健やかに育って欲しいという親心であろう。

④ 金太郎の怪童ぶりを示す伝承

「金時の爪切地蔵」は金太郎が爪で彫ったといわれている地蔵であり、竹之下にある。金太郎が踏み抜いたという足形のついた「金時の足跡石」は小山地区にある。怪童ぶりを示す伝承は、彼の遊びの場が足柄山であったことにもよるのであろうが、多くは足柄山中にある。金太郎がお手玉にした「手鞠石」、金時山から礫に投げた「礫石」、蹴落としたと言われる「蹴落し石」、金時が踏み割った「踏み割り石」、何時も登って遊んだという八畳敷きぐらいの「遊び石」・「金蓋石」、金太郎が山の主の大猪の鼻を切って吊ったという金時山頂の祠（猪鼻神社）がそれである。

「手つき石」と言うのがある。これは、金時が、熊と相撲を取って、唯一度誤って負けたときに、手をついた跡だという説とその怪力ぶりを示すために、力を込めて差し込んだ手指の跡の残った石だとも言われている。元々金時山の中腹にあったものが、小山町役場で保存され、現在では如何なる経緯か定かではないが、金時神社で大事に保管されている。

⑤ その他

源頼光と初対面した場所と言われる「頼光の対面滝」（竹之下地区）、金時の霊を祀るという「牛頭天神社」（竹之下地区）もある。

(以上 参考：小山町史民族編 960p～964p)

面白いもので、伝承は金太郎に関わる「〇〇石」と言うものが圧倒的に多い。石の不滅性が伝承に打って付けなのだろう。

本町史に記載されている伝説・伝承が記載されている文献は各種風土記や石高帳、先人の研究資料等多岐に亘っている。一つの研究材料になると言うぐらいに、坂田金時或いは金太郎は、多くの人を今なお引きつけて止まないのだろう。打算的・乾ききった近代合理主義に毒された現代には金太郎伝説など、荒唐無稽、笑止千万なのかも知れない。しかし、このような時代なればこそ、時に斯様な浪漫に心躍らせてみるのも一興であろう。

「♪まさかり♪ 担いで♪ 金太郎♪ 熊にまたがり♪ おうまのけいこ♪」と言うお馴染みの童謡の正確な制作年代が解る確実な資料は発見出来なかったそうであり、作詞者の活躍年代から明治20年頃と推測されている。(町編纂「足柄山の金太郎」9p)

金太郎伝承の地らしく、金太郎に因んだお祭りを毎年開催している。嘗ては「金時祭り」と称していたが、平成8年以降は、「金太郎春祭り」「金太郎夏祭り」に分割開催されている。富士駐屯地曹友会、富士学校音楽隊が協力参加している。

金太郎に因むもの多彩

- ① 総合文化会館の大ホールを「金太郎ホール」と命名、ホール内の緞帳には「金太郎と熊の大きな絵柄」
- ② 金太郎郵便局 H13年6月開局、駿河小山駅前郵便局が移転、改称
- ③ 小山町公共下水道(現在は須走のみ)のマンホールの蓋に「熊に跨った金太郎」
- ④ 消防署の車庫のシャッターに金太郎の絵
- ※ 一時的なものではあろうが、東海道400年祭絡みの「金太郎誕生伝説街道」のペナント
- ⑤ 金太郎グッズ

町内の店で、「腹掛け、クッション、座布団、枕、テレカ、キーホルダー、ワイン、団子、酒、(以上は何れも金太郎を冠している、)金時を冠したものに最中、煎餅、」有り。特産品として紹介されているので、是非どうぞ。